

カンパラ通信～ナカセロの丘から

第37回 ウガンダのマスコミ事情（その1） 日刊紙編

TICAD7がテーマの前回第36回を上梓しましてから1ヶ月半以上間を置いた10月14日になってしまいました。TICAD7前後からの忙しさが已まずに続いております。今回第37回を皆様にご披露するにもやはり時間がかかりましたことどうぞお許しください。忙しさの一つの理由が10月下旬に大使館とJICA事務所共催で実施のプレス・ツアーの準備と実施でした。プレス・ツアーとは、日本の対ウガンダ開発援助をより良く多くのウガンダ国民に伝えてもらうため日本側からウガンダのメディアに声を掛け日本が手掛けた援助案件を紹介するツアーです。今回10月下旬のプレス・ツアーは7社8名のジャーナリストが参加し2泊3日の日程でウガンダ東部において実施した下記4つの案件を案内するとともに、東部地域の中心の町であるムバレにて日本の開発援助に関するセミナーを開催し、現地案内ができなかった案件についてそのセミナーの枠内でウガンダ側の受益者から感想を述べてもらうようにしました。

- 1) 職業訓練に携わるJICAボランティア
- 2) 水供給に関する無償資金協力援助
- 3) 医療サービスの改善を図る技術協力
- 4) 中等教育校の校舎の増設に係る草の根無償人間の安全保障無償協力



（プレスツアーに参加した記者が執筆した日刊紙記事）

その結果、テレビ局3社がツアー中にそれぞれのニュース番組で取り上げ、2つの日刊紙がツアー後に記事にしてくれました。さて、このようにウガンダ国民に日本の貢献を知ってもらいたいと思い私たちが働きかけるウガンダのメディア機関ですが、ウガンダのメディアについて皆さんはご想像できますか。なかなか

かイメージが沸かないのではないのでしょうか。これからそれらメディアの一端をご紹介しますと思います。

メディアというと、日刊紙に代表される印刷媒体、テレビ・ラジオといったオーディオ・ビジュアル媒体をすぐに思いつきますね。政府系の放送通信規制機関であるウガンダ通信委員会によれば、ラジオ局は全国で300局に近い数にのぼっています（私が知っている限りではみなFM局です。）。33局がテレビ局登録されているようで、5局くらいがカンパラを本拠地とし全国向けの放送をしており、そのうち1局が現地ブガンダ語で他局は英語での放送となっています。その他は放送地域が限られる地方テレビ局のように思われます。一般放送局では国営テレビ局はUganda Broadcasting Corporationの1社で、他は全て民営です。この他登録上有料放送局が10社あり、Multichoiceという南アフリカ系の会社と中国系のStar Timesが2大大手で衛星放送を流しています。前2社のサービスで、私たちもここウガンダでCNNやBBCはもちろんのこと、スポーツ番組を見ることができます。主要日刊紙は、政府が多数株主となっているNew Visionと民間所有のDaily Monitorの2紙です。その他に毎日の発行ではないのですがObserverとSunriseという新聞があります。いずれも英語で書かれています。そしてタブロイド紙というよりゴシップ紙といってよい新聞が数紙あります。経済専門の週刊紙で先出のDaily Monitor紙の姉妹紙East Africanがあります。これは東アフリカ諸国の記事を中心に掲載する地域新聞の様相を呈しており週1回発行されています。この他、インターネット上のニュースサイトが数社あり、中でも私はChimpreportsを愛読しています。このように主要なメディア媒体の言葉が英語になっているところが私たち外国人にとってウガンダのことを知る上で非常に有難いところです。



(デイリーモニター紙の編集室)

それでは今回は主要日刊紙がどのような新聞であるかをより深く取り上げて

みたいと思います。主要日刊紙のうちの New Vision は発行部数約 3 万 5 0 0 0 と公称しています。日本の読売新聞の販売部数が 8 0 0 万部、朝日新聞のそれが 5 9 5 万部ですから、ウガンダの人口約 4, 3 0 0 万人であることを考え併せましても微々たるものと言えます。購読者は 2 タイプに分かれ、一つは官公署、ホテルやレストランといった新聞を必要とする役所や店舗です。もう一方は個人購入者で、都市部のインテリ層ではと想像するところです。新聞料金は 1 部 2, 0 0 0 シリングと 6 5 円くらいながら、一人当たりの GDP が年間 7 0 0 ドルのウガンダのサラリーマンの給与水準に照らすと新聞は非常に高価な買い物といえることから、上記のような状況も納得していただけるでしょう。一般の人が日刊紙を読む、しかも定期購読契約という訳にはいかないと思う次第です。その分地方ではラジオが主要なマスコミ媒体となっています。

さて、New Vision は購読者が政府系であっても提灯持ち記事だけでなく、政府を批判する記事を書いたりしています。New Vision 紙を傘下に置く Vision グループが株式会社の形式を取っていますので、収益を上げることが求められているからです。ウガンダ財務省が株の約 5 3 %、ウガンダ年金基金が 2 0 % 強を所有しています。同じ理由からだと思いますが、新聞社の中国大使館への営業が成功したのでしょうか、月 1 回の “New Era” という 8 ページくらいから成る紙面を織り込んでいます。最近ではインドの企業団体にも同じような売り込みをかけたのか、折込紙面が見られるようになりました。さて一般紙面の内容は、ムセベニ大統領の動静が記事にされるのはもちろんですが、内政では議会の議論の模様や政府幹部の汚職の摘発なども良く取り上げられます。社説やオピニオンリーダーのコラム、読者の投稿欄もあります。日本の一般紙と同じですね。全紙面 4 8 ページ中最後の 4 ページくらいはスポーツにあてられています。

民間紙の Daily Monitor ですが、こちらは Nation Media グループ傘下の日刊紙という位置付けになり発行部数 1 万 9, 0 0 0 部とされています。取り上げるニュースは New Vision とあまり変わらないものの、報道の力点の置き方により政府に批判的なスタンスがはっきり出ているという印象です。両紙とも広告収入に頼らなければならないという観点からだと思いますが、紙媒体での販売の伸びに限界を感じて、オンライン版にも力を入れています。この辺りの状況は日本や欧米と事情を同じくしているものと言えます。なお、両紙とも紙面は真面目な記事ばかりではなく、数独やクロスワード、星占いを載せた柔らかい頁があり、別刷りの週末版は女性のファッションや街のレストラン案内のコーナーもあります。紙面にはもちろん企業広告や大イベント紹介も掲載されますし、土地の売買や賃貸物件、乗用車の売買といったいわゆる産業広告もあり、基本的には

日本の新聞と同じ構成と言ってよいでしょう。

The image shows a newspaper classifieds page with several columns and sections. At the top, there are contact boxes for real estate agencies. Below that, the main content is organized into columns:

- SALE:** Includes 'FLORIDA APARTMENTS' and 'FLORIDA APARTMENTS FOR SALE'.
- PROPERTIES:** Features 'SALE' listings for a 'Good deal Kira brand new 4bedrooms on 11 decimals' and 'House in Bombo Town'.
- BUSINESS:** Contains 'SOLAR LIGHTS' and 'STOLEN MOTORCYCLE' notices.
- MOTOR:** Lists a 'Toyota Premio' for sale.
- NOTICE:** Includes 'VACANCY' for a 'WELL LIFE COMPANY', 'WEDDING BANNIS', and 'LOST DRIVING PERMIT'.

(土地売買や賃貸物件等の広告ページ)

記事を読んでいると単純な間違いが目立ったり不正確なところがあるものの、全体的には上記2社の主要日刊紙をフォローしているとウガンダという国の動きの大体は掴めると感じています。新聞の記事に基づいた情報を把握した上で関係する政府関係者や財界人に質問をしますと、報道内容がそれほど外れていないのがわかります。そういう意味で私はウガンダのメディアを丁寧に追うことに力を入れています。それでは報道の自由度はどうでしょう。ウガンダ憲法で報道の自由は保障されていますが、実態は決して良いとは言えません。ウガンダ政府は、メディアは政府が良いことをしても書いてくれず、批判ばかりしていると不満をよく述べています。そのせいか、官憲が反政府的な行動を取材するジャーナリストを取り締まることがよくあります。家の者も外出先で警察がジャーナリスト逮捕の為、大挙して押し寄せたのを目撃しています。政府系 New Vision の記者であってもそれは同じです。それも相当暴力的で手荒いやり方をします。そういう厳しい規制の中でも取材活動をしている記者が何人もいます。私もそのうちの数人と親しく付き合っています。彼らの中には警察に尾行されたり、難癖をつけられ逮捕された経験を持つ者がおります。そういう厳しい環境の中で良く頑張っているな、と感心しています。こういったメディア環境の中、ジャーナリストと付き合いながら、いろいろな情報を仕入れています。私の一番の仕事はウガンダのメディアに日本についての記事ができるだけ掲載・放送されるよう働きかけることです。就中我が国がウガンダで実施している開発援助を広くウガンダの人に知ってもらうためにイベントごとにプレスリリースを送るだけでは十分ではなく、日頃からメディア会社の幹部や編集長とも、そして、一線で活動しているジャーナリストとも接触を密にし、日本のウガンダへの援助・支

援・開発協力が取り上げられるよう努力しています。これも私の大事な仕事と自覚しているからです。大使の仕事は、勤務している国において「日本」というイメージをできるだけ肯定的に売り込むセールスマンと自覚しています。その自覚の下でウガンダにおいてこれからも「日本」を積極的にセールスしていきます。



(Vision グループが有するモダンな日本製印刷機)

(了)